

高山社跡では母屋兼蚕室の修復工事をしています

高山社跡の代表的な建物で、模範蚕室の特徴を持つ、母屋兼蚕室の修復工事を開始しました。

この工事では、建物の修理・調査を目的に、いったん全て手作業で丁寧に解体し、痕跡や傷み具合を調査すると同時に、複数の改修された箇所がどの時代に改変されたのかを調査します。保存修理の範囲を最小限にとどめて、建物の傷みの激しい部分だけを同じ樹種で交換し、日本伝統の木継ぎ技法で、元の部材と一体となるよう修復します。来場者の危険防止のため耐震補強も実施し、高山社分教場当時の明治後半から大正時代の状態に復元します。完成は令和9年度の予定です。

工事中でも高山社跡は見学可能です。解説員が長屋門内でデジタルサイネージを使った解説をした後、敷地内の修復の済んだ建物・遺構を紹介します。工事の工程により内部が見学可能な場合には、時間を決めて、ヘルメット着用の上、修復工事ならではの貴重な姿を解説員が同行して説明します。今後も高山社跡の保存整備に努め、後世に残しつつ、世界遺産としての価値、清温育の考案者・高山長五郎の業績、高山社の業績など、素晴らしさを広く伝えていきます。

問い合わせ 文化財保護課 ☎05997-
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館となる場合があります



2階と天窗の瓦を下ろしました。屋根の下地を調べてから解体します



1階平屋も瓦を下ろし、屋根の下地を調べてから解体します



大きな画面で画像を見ながらの解説は、とても分かりやすいと好評です

修復工事完了までの全体計画

令和3年度	修理・調査のための母屋兼蚕室の全解体
令和4年度	母屋兼蚕室の基礎部分の発掘調査および復原補強設計
令和5年度～令和9年度	保存修理および耐震工事